

先月は『わらべうたでふれ合いあそび』をテーマにわらべうたを親子で楽しみました。

5組の親子が参加され、一緒にわらべうたをやってみると、子どもたちはじーっとお母さんの目を見つめていました。広いホールでずり這いで動いたり、お母さんのそばにいらながらもあちらこちらに興味深々の様子も見られました。お母さん同士も和やかに歓談されていました。



めだかくらぶ

文責 端 晶子

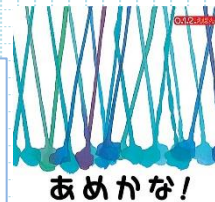


楽しい梅雨の過ごし方

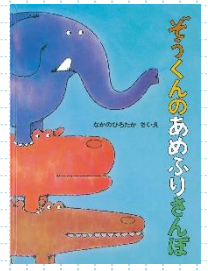
豊玉保育園では幼児のクラスは雨の日も傘をさしたり合羽を着て、園庭であそんだり散歩に出かけることがあり、雨の日ならではの魅力に出会うことができず。匂いや音、水たまりや雨のしずくなどいつもとは違う発見がたくさんあります。大人にとっては「また雨!」「洗濯物も乾かないし」とあまり良いイメージはないですね。でも子どもたちは傘や長靴が大好きです。小さいお子さんのご家庭では雨の日の外出は濡れるし、荷物も増えるし大変ですが、雨の日はおうちと決めつけずに、濡れないところから雨を眺めたり、ちよつとだけ散歩をしてみたりと雨を楽しむことができます。



雨の絵本

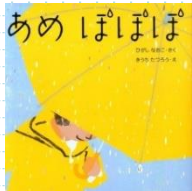


征矢清 作
林明子 絵
福音館書店
あまやどり中の生き物と交流

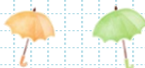


U.G.サトー 作・絵
福音館書店
色でつづる空と雨と光のおはなし

なかのひろたか 作・絵 福音館書店
今日はあめふり。ぞうくんはごきげん。散歩に出かけます。



ひがし なおこ 作
きょうちたつろう 絵
くもん出版
雨粒が語りかけてきます



今森光彦 作
福音館書店
みずたまレンズの中はとっても不思議な世界が。



片山健 作・絵
福音館書店
毎日毎日あめ。そこでこっささんは・・・

ちやっぴやっぴやっぴ

「喜ぶ」をプレゼント

人間にとって大切なコミュニケーションは、「喜びを他者と与え、そして自分も与えられる」ということです。「あなたが好き」とか「かわいいな」という気持ちをもつと、それを言葉に出さなくても相手に心は通じるし、同じような温かい心が返ってきます。これは言葉を変えると、「喜び」という心のプレゼントをお互いに交換しているのです。このプレゼント交換は、子育てそのものです。「赤ちゃんのことが大好き」「かわいいな」と思えば、子どもは「ママ大好き。パパ大好き」という心で応えます。そんな赤ちゃんの存在を感じると、親はまた喜びを感じます。子育てという、親から子どもへの一方的に愛情を注ぐものだと思います。子育てという、親から子どもへの子育ては、心の交流なのです。

そして子どもの情緒は、こうした感情の交流を基盤に育っていきます。言葉がわからなくてもコミュニケーションは始まっています。それどころか、眠っていてもプレゼントは行ったり来たりしています。スヤスヤ眠っている子どもをなでながら、両親が「今日は笑った。言葉を覚えた」と楽しそうに会話をしていたら、その喜びの感情を子どもはちゃんと吸収しています。でも一生懸命に子育てをしようとするあまり、子どもの差し出している喜びのプレゼントに気づかない人がいます。それはもったいないことですね。



佐々木正美・著
「3歳までのかわいいがり子育て」より

◎今月のめだかくらぶ◎

6月15日(木)
『しゃぼん玉であそぼう』

*身体計測・6月生まれの誕生会を予定しています。

入園見学会が始まっています。秋になると見学会は込み合いますので、ぜひ早めにご参加ください。詳細は園掲示板またはHP『高洲福祉会 練馬区立豊玉保育園』で検索頂くと確認できます! HPではその他、めだかだよりや園だより、とよほつと新聞一面も掲載していますのでぜひご覧ください。

